尊厳死 かごしま
第 24 号

発行　日本尊厳死協会　かごしま
事務局　〒892-0822　鹿児島市泉町1－15
「公益財団法人慈愛会　事務局」内
TEL 099-223-1131　FAX 099-223-2444
URL　http://www5f.biglobe.ne.jp/~osame/sonngen/index-s.html

平成23年度日本尊厳死協会かごしま総会・公開講演会

自分らしく尊厳を持って生きる

～温かく看まもられて～

医師・県議会議員　大園清信

今回、日本尊厳死協会かごしまの平成23年度総会公開講演会で講演の機会をいただきましたことに心から感謝申し上げます。講演の内容が来場された皆様方に少しでも参考になり、これからの人生において「尊厳死」という考え方をご理解いただければ幸いに存じます。

ところで、今回の東日本大震災においては一瞬のうちに大切な家族や親しい者との別れが起こり、改めて生と死について皆で真剣に考える時期ではないかと思います。同時に、「自分らしく尊厳をもって生きるとは何か」まさに尊厳死協会の考え方を社会にしっかり普及させる良い機会ではないかと思います。私も3月20日から医療支援に参加しましたが、被災地の惨状を見るときに言葉が出ませんでした。お亡くなりになられた方々、今尚、行方不明の方々の無念の思いをしっかりと受け止めて、「人が生きていることの幸せ」を感じ、そして「尊厳をもって生きられる社会」をしっかりと築きたいと思います。

私は現在、県議会議員ではありますが、元々麻酔専門医としてこれまで手術時の麻酔、集中治療室での重症患者の管理、患者の痛みをとるペインクリニック、そして現在医師として従事している救急医療の4つの分野で仕事をさせていただきました。特にペインクリニックの分野においては、癌患者の痛みをとり、さらには末期患者の在宅医療も経験しました。痛みをとることはただ肉体的痛みだけではなく、患者・家族の心の痛みまでもとることも求められます。特

に末期の癌患者さんの在宅医療においては、家族に温かく看まもられ、患者本人が自分らしく尊厳をもって生きることが大変大切なことだと思います。

尊厳死の考え方は今後、癌患者、高齢者、呼吸不全患者、ALSの患者、救急医療の分野で大切になってきます。特にどの分野でも延命装置の装着の是否や救急医療における延命処置中止など患者の事前の意思表示をはじめ、家族、医療従事者とのしっかりとしたコンセンサスが得られることが大切です。色々な立場から議論することは大切ですが私自身としては、「温かく看まもられて自分らしく尊厳をもって生きる」ためには（1）生前にお互い心から信頼出来る家族、人間関係を構築しておく（2）生前に死について家族としっかり心ゆくまで語り、自分の死に様についてはこうあるべしとの明確な意思表示をしておく（3）死については、死の受け入れ準備をかねてからしておくことだと思います。

最後に尊厳死協会の考え方が社会に普及するように今後も努力したいと思います。

内山　裕　先生

「主役・脇役・いのち」
―日本尊厳死協会かごしま　名誉会長　内山裕先生―を聴いて

日本尊厳死協会ながさき　会長　釘宮　敏定

日本尊厳死協会ながさきの平成23年度総会・公開講演会は、23年４月23日(土)、長崎市立図書館に日本尊厳死協会かごしまの内山裕名誉会長を迎えて開催されました。内山名誉会長の講演の概略を纏めてみました。

内山裕先生は大正14年、鹿児島市のご出身、鹿児島大学医学部をご卒業後、昭和25年から40年間にわたり、公衆衛生・環境行政に従事、鹿児島県下の各保健所長、県環境局長、県衛生部長等を歴任されました。演題の「主役・脇役‥」は、医療、とくに終末期医療における主役は患者さんであるべきで、医療者ではないと言う想いが込められています。

美智子皇后が、折に触れてお話になった童話「でんでん虫の哀しみ」（新美南吉作）にあるように、人はみな、背中に人生の哀しみをいっぱい背負って生きている。医療者はそのことに気づき、常に弱者の視点に立って、患者さんに接する事が大切である。医療の本質は、そうした限りない「優しさ」の中にある。先生は、こういう医師としての熱い思いを、奄美、水俣病などにおける地域保健活動の体験を交えながら、聴衆の一人一人に語りかけるような口調で話されました。

先生の医療の原点は、竹馬の友の自決という衝撃的な出来事でした。人間魚雷「回天」の隊長であった橋口大尉は、多くの若い部下を特攻攻撃で死なせた責任感から、終戦直後、部下の遺族全員に手紙を書いた後、愛艇の中で自らの命を絶ちました。内山先生は、何時の日か、彼に再会するときに「自分はこう生きてきたよ」と伝えられるよう、誠実に、公衆衛生医一筋の人生を歩いて来られたのだと思います。鹿児島県に尊厳死協会を創設されたのも、先生にとっては特別のことではなく、日常の、医療奉仕活動の延長線上にあったのでしょう。

「いのち」について：人間は60兆個の細胞から出来ており、その一つ一つが自分の一部である。と言うことは、その60兆個の生命体の宿主が人間であり、その人間の宿主が地球、地球の宿主が宇宙である。そう考えるとき、最終の、大いなる宿主は一体何だろう。先人達は、そこに「浄土」、あるいは「天国」という答えを見出したのではなかろうか。

また、人間とは「からだ」、「こころ」、「たましい」の三つからなる自然の一部であり、モノとしての人間が死んだことは、人間の全てが消滅したことではない。モノでない「いのち＝自分＝たましい」は、、パートナーであった「からだ」、「こころ」と別れて無限の世界に還っていく、というご自身の死生観を語られました。

最後に、「葉っぱのフレデイ」(レオ・バスカーリア作）の話の中で、大きな葉っぱのダニエルがフレデイに言う「死んで終わりなのではない、いのちは他のいのちを生かし続けながら、永遠に循環している、それが＜いのち＞である」と言う言葉で、話を締めくくられました。

講演会終了後提出されたアンケートの中から２、３のご意見を紹介しておきます。

1，60代女性、福祉関係職、非会員：内山先生は語り口がソフトで、最初の親しい友の死の話から、ご自分の信念に基づいて地域医療に係わられたこと、「でんでん虫の哀しみ」のお話、水俣病に係わった医師としての悲しさ・つらさ･･･今日はお話を聞けて幸せでした。

2，60代女性、看護師、会員：ご高齢にも拘わらず、心にしみるお話が聞けて感動しました。明日も鹿児島の総会とお忙しいのに遠路お出で頂き、心から感謝申し上げます。先生のように優しく美しく年を重ねていきたいと思っています。

3，50代男性、一般人、非会員：私の息子も理学療法士をしていますので、今日の講演内容を話してやろうと思います。「終幕の主役は誰なのか」、改めて考えさせられました。息子にも、「患者に優しい、患者が主役の医療」を目指して欲しいと思いました。有り難うございました。

（事務局註：筆者の日本尊厳死協会ながさき会長釘宮敏定先生は、長崎大学名誉教授（心臓血管外科学）・長崎労災病院名誉院長・長崎医療技術専門学校長としてもご活躍中。）

釘宮　敏定　先生

「尊厳死の「なぜ」を考える

―日本尊厳死協会ながさき　会長　釘宮敏定先生―を聴いて

日本尊厳死協会かごしま　名誉会長　内　山　　裕

日本尊厳死協会ながさきの平成23年度総会・公開講演会（長崎市市立図書館）に招かれた筆者は，標記の講演を拝聴する機会を得ました。

講師の釘宮先生は、昭和33年に九州大学を卒業後、郷里の長崎に帰り40年間にわたり長崎大学(第一外科、救急部、心臓血管外科)に在籍、そのうち最後の13年間は、新設された心臓血管学講座の初代教授として功績を挙げられました。その後長崎労災病院長を6年間務められた後、平成16年に長崎医療技術専門学校の校長に就任されていますが、その間、平成10年から、日本尊厳死協会ながさきの会長としてその誠実な人柄と高い識見が幅広い人望を集めておられます。

先生は冒頭、本会講演会の参加者から過去に出された質問を中心に、尊厳死の現状と問題点を自分なりに纏めてみたと、述べられ、多くの生死の現場に立ち会ってきた豊富な体験を踏まえ、限りある命をいかに生きるか、人生の最後はどのように迎えるべきかと言う根源的な命題について、皆様と共に考える機会になれば、との想いを話されました。

紙面の都合上、以下はテーマだけに止めますが、講演会終了後提出されたアンケートを拝見しただけでも、暖かい雰囲気で胸にしみました。釘宮先生のお話は、判りやすかった、リビングウイルが理解できた。明るく分かりやすい話、参加して良かった。尊厳死の法制化に期待しています。釘宮先生の話で気持ちの整理がつきました。等々・・。大変感動的でした。有り難うございました。

●何故尊厳死を望むのか
●欧米の安楽死の現状
●日本人の尊厳死
●日本の安楽死事件
●尊厳死の本人意思を立証する文書
●日本尊厳死協会のリビングウイルの記載内容
●会員証は最強の意思表示手段
●尊厳死とは、最後まで人間らしく生きることである

「老木も花は若木と変わらない、命の限り咲いた桜は後悔なく散っていく」、

大園清信先生のお話に感動して

日本尊厳死協会かごしま　会長　納　光弘

大園先生は医師であり、かつ県議会議員として活躍しておられますが、今回のお話は行政のお立場からではなく、現場の医療人としてのお立場からのお話でした。麻酔専門医として救急の現場や、末期の癌患者様の疼痛の管理などに実際携わっておられるので、先生のお話は私たちの心に強く響きました。講演を聴かれた方々のアンケートでも、「医療の現場を知るいい機会でした」、「大園先生の誠実な人柄が伝わってきました」、「大園先生のお話をお聴きして、尊厳死のあり方がとてもよく理解できました」、「はじめて参加しましたが、素晴らしいの一言です、これからの自分の生き方を見直したいと思います」などなど、皆さんとても感動しておられました。

ご多忙な大園先生にお時間をいただき、このようにすばらしいご講話を頂戴し、心より感謝いたすことでした。

ありがとうございました。

“尊厳死出前講座„ のご案内

この講座は、日本尊厳死協会の会員以外の方々でも、皆さんのご要望や申込みにお応えして、私共の役員がおうかがいして「安楽死と尊厳死の違い」など尊厳死に関わるさまざまな問題についてご説明したり意見交換を行うものです。

・申し込みできるのは
10人以上で構成される団体やグループなど、

・時間・場所は
時間は原則として90分以内、日程と開催場所は講師の都合と調整させていただきます。

・講師料等は
講師料は原則として無料ですが、会場使用料や講座に必要な器具等は、申込者で用意していただきます。
なお、鹿児島市内から遠隔地の場合は、交通費の負担に関して相談させていただく場合があります。

・申込みは
①団体名②代表者名及び担当者③連絡先住所及び電話番号等④希望日時⑤希望講座内容（出来るだけ詳しく）⑥実施会場
上記を事務局までご連絡下さい。

★　会員の声、読者の声への投稿をお待ちいたしております。

第23回尊厳死かごしま公開講話会のご案内

と　き：　平成23年9月3日（土）午後２時（開場１時30分）～３時30分
ところ：　かごしま県民交流センター　３Ｆ　中研修室
鹿児島市山下町14番50号　（TEL　099-221-6600）
講　師：　井上　従昭　先生（日本尊厳死かごしま理事・僧侶）
演　題：　「死を『前に見る』ということ」～死を隠さない文化・死と向き合える生活～

●入場無料●

第24回尊厳死かごしま公開講話会のご案内

と　き：　平成23年11月20日（日）午後２時（開場１時30分）～４時
ところ：　かごしま市民福祉プラザ　５階中会議室
演　題：　「認知症の最近の進歩と鹿児島地域の認知症」
講　師：　高島　博　先生　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 神経内科・老年医学（第三内科）教授

●入場無料●

編集後記

平成23年度総会・公開講演会は、“自分らしく尊厳をもって生きる”をテーマに県会議員の大園清信先生がお話下さり、盛会裏に終了いたしました。
去る３月11日に発生した東日本大震災は、私たちの想像を超える大災害で多くの方々が犠牲となられました。被害に会われた方の無念さ、ご苦労を思うと胸が痛みます。亡くなられた方々のご冥福をお祈りすると共に、被害を受けられた方々が元気を取り戻し、新たな思いで再出発できることを心より願っております。また、自分のいのちを大切に生きていくことが私どもの課題であると考えます。　（M・U）